

ワイヤレスブロードバンド実現のための周波数確保等に関する再意見

再意見提出者	株式会社 毎日放送
--------	-----------

意見募集において寄せられた意見に対する意見

	意見提出者	寄せられた意見に対する意見内容
		<p>○放送事業者用の 800MHz 帯 FPU と特定ラジオマイクは他の周波数へ移行すべきとの意見について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放送事業者用の 800MHz 帯 FPU は、その特性を生かし見通し外伝送や移動中継など報道やスポーツ中継等番組制作全般に幅広く利用されている。また、HDTV の伝送技術も確立されており、放送事業者の伝送手段として必要不可欠な無線システムとなっている。仮に移行するとしても、現在の技術では、1GHz 以上の周波数において、同様の伝送を実現するのは困難な状況である。また、移行可能な周波数として地上デジタル放送の空きチャンネルを利用する案も考えられるが、たとえ空きチャンネルであっても、一般受信アンテナへの飛び込みは避けられず、ブースター等の機器による受信障害を引き起こすことが想定されるため、現実には不可能と考えられる。 ・現行方式の 800MHz 帯 FPU は伝送容量が 16.2Mbps であり高画質化が急務である。現在、総務省委託事業の研究開発が行われ、周波数帯幅を広げることなく低遅延・高画質を実現する機器の技術開発が完了している。この新方式について早期の制度整備を強く要望したい。放送事業者はこの新方式機器を念頭に、機器更新を先延ばしにしており台数、運用数が伸び悩んでいる面もある。新たな方式の機器導入により視聴者の皆さまにデジタル放送の特性を活かした、より良い放送をお届けすると共に、周波数の有効利用に寄与できるものと考えている。

		<ul style="list-style-type: none"> ・特定ラジオマイクについては、舞台やコンサートのほか各種イベントなど広範囲で運用されている。放送事業者の 800MHz 帯 FPU と同一周波数ながら、お互いに組織連携をとって相互に干渉妨害を与えない調整を行っている。このことは、周波数の共用による有効利用であるとともに、干渉を受けやすい微弱な出力の特定ラジオマイクにとって混信の影響を回避できる最善の運用であるといえる。移行となると、干渉を受けない専用の周波数割り当て、または 800MHz 帯 FPU との移行先での共用が不可欠となる。 ・800MHz 帯 FPU と特定ラジオマイクのいずれの周波数移行についても、その移行先の環境整備や機器開発に相応の時間が必要なため、少なくとも 10 年程度の移行期間が必要となることが予想される。ワイヤレスブロードバンドの周波数確保については、その必要性、重要性から早期運用が期待されているので、800MHz 帯 FPU と特定ラジオマイクの周波数帯域ではなく、いち早く着手できる周波数帯の使用が望ましいと考える。
--	--	---